

異分野融合型イノベーション推進人材の育成

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：熊本大学（総括責任者：谷口 功）

プロジェクトの概要

イノベーション推進人材育成センターを開設し、「イノベーション創出実践プログラム」により、博士号取得者(ポスドク)および博士後期課程学生に対して、インターンシップや産学共同研究を含む1年間の教育ならびに研究指導を大学と協働企業が共同で実施し、異分野融合能力を基本とするイノベーション創出のための実践力、技術経営力を備え、国際的に活躍できる創造性豊かな若手研究人材を育成する。また、幅広い視野とグローバルな活動を可能とするため、協働企業の要請による海外での企業研修も実施する。本センターでの教育、および国内外の企業等でのインターンシップを含む本実践プログラムでの単位取得と受講生提出の修了報告書「イノベーション創出のための事業化モデル」により、修了判定を実施する。本システムにより、受講生に地域社会や国内外の協働企業等への就職のチャンスを与え、地域社会や国内外の企業等での活躍が期待される若手研究人材の供給拠点を構築する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	イノベーション人材養成システム改革状況	実践プログラムの開発・運用状況	実施体制	今後の進め方
B	b	b	b	b	b

総合評価：B（所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる）

(2) 評価コメント

中間評価での課題を具体化し、改善策を検討・実施したことは評価できるものの、プログラム開発、インターンシップ先開発につながらず、実効性を得られるまでには至らなかった。被養成者数実績も特にDCが目標数を大幅に下回り、DC学生の意識改革、体制の精査が不十分であった。また、異分野融合が本プログラムのテーマであるが、取組と成果の具体像が見えなかった。本プログラムをベースに事業の方向付けを具体化した上で、今後の継続と発展に期待する。

- ・**目標達成度**：中間評価時以降、学外企業、自治体との連携を強め、PDの養成修了者数は目標をほぼ達成したものの、DCの養成修了者数が目標を大幅に下回った。人材養成システムの改革や所期計画の不完全さが原因であり、中間評価以降もセミナー開催等の支援的な取組に終始しており、本質的な議論と体制強化がなされていない。今後、教員、DC学生の理解を深めるための取組を積極的に実施する必要がある。

- ・**イノベーション人材養成システム改革状況**：イノベーション推進人材育成センターを全学組織

として設置し、中間評価以降、MO T教育の融合、教員の意識改革にも取り組んだことは評価できるが、結果として、目標に掲げた技術経営、国際的視野を持ったPD/DC育成への転換を目的とした大学院教育システム改革につながっていない。

・**実践プログラムの開発・運用状況**：学内の意識改革に向けた各種プログラムを採用している点は評価できるが、プログラムの開発・運用に企業等の参画を求める仕組みが必要であった。また、日本人PD/DCを世界に羽ばたかせる魅力ある仕組みも検討すべきである。

・**実施体制**：副センター長に企業人を起用し、熊本県工業協会との連携協定を結ぶなど、企業、自治体との連携による実施体制を構築したことは評価できる。しかしながら、本事業に有効に機能しておらず、また、国内外への組織的な広がりが不足している。この実施体制の不備や初動の遅れが、DC被養成者数目標を大幅に下回る結果となった。学内委員会の開催数も年1、2回と少なく、体制の改善努力が見られなかった。今後、学長、企業のコミットメントを深める必要がある。

・**今後の進め方**：中間評価以降に実施した施策の方向は評価できるが、今回の不調な成果の主たる要因（実施体制の不備、各プログラムへの企業等の参画を求める仕組みの不備等）を、機関において精査した上で事業継続計画を立案、実施する必要がある。特に他大学、国内企業との連携を強化し、さらに効果的に進めるとともに、教員や学生の意識改革にも引き続き取り組む必要がある。